

第86回 経営協議会議事録

日 時 令和元年6月21日（金）14時00分～16時05分

場 所 和歌山大学南1号館（事務局棟）3階共通会議室

出席者 伊東学長

赤木委員、檜畑委員、柏原委員、帯野委員、岡村委員、垣見委員、
多田委員

永井、恵下 各理事、吉田事務局長

（松原監事、田中監事、添田副学長、クパニ副学長、足立副学長、本山教育
学部長、マグレビ経済学部長、宗森システム工学部長、尾久土観光学部長、
堀内企画課長、南方総務課長、大林財務課長、西施設整備課長、岡野学務
課長）

欠席者 山本理事

最初に、学長から挨拶があり、その後、新執行部の紹介があった。

学長から、第85回（3月15日）の議事録について確認があり、了承した。

議 題

1. 国立大学法人和歌山大学経営協議会規程の一部改正について

学長から資料1に基づき説明があり、審議の結果、了承した。

2. 大学機関別認証評価自己評価書（案）について

添田副学長から資料2、資料2-1～5に基づき説明があり、審議の結果、
了承した。

（主な質疑）

・認証評価の基準で、改善が必要な事項や対応できていない事項があったの
か。

→昨年度に、教育の内部質保証についての点検や組織体制を整備したことが
改善した点である。具体的には、3ポリシーの見直しや専門部会による内部
質保証にかかる点検やレビュー、さらには外部の方に意見を聞くなど教育課
程に特化した教育の質保証システムを構築した。

・大学の独自性や特徴があるディプロマ・ポリシーを策定することが望まし
いと思うがいかがなものか。

→大学全体のディプロマ・ポリシー、それに基づいた学部のディプロマ・ポ
リシーがある。各学部のディプロマ・ポリシーにはそれぞれの学部の特長や
特色を盛り込んでいるところである。また、現在、来年度に向けて新たなデ

<p>イプロマ・ポリシーを検討中であり、新しいディプロマ・ポリシーにおいては、和歌山大学の特色をある程度は踏まえたものとなっている。</p>
<p>3. 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について 添田副学長から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、了承した。</p> <p>（主な質疑）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国人の留学生が多いと思うが、その他の国からも留学生を受け入れるなど戦略的なグローバル化を進めていくべきであると考えている。 →7月にウズベキスタン学長会議にも行く予定であり、そのような機会を通じて交流協定の締結を模索しながら、交流協定の拡大に努めていきたいと考えている。また、大学としてグローバル化の方針を策定し、留学生の拡充を図っていきたいと考えている。
<p>4. 平成30年度決算（案）について 恵下理事から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、了承した。</p> <p>（主な質疑）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金や補助金の収益を伸ばすことができないのか。 →国立大学の医学部を持たない同規模のHグループでは最下位というのが現状である。そのような状況を踏まえ、科学研究費や外部資金の獲得を増やすための努力をしているところである。
<p>5. 令和2年度概算要求について 永井理事から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、了承した。</p>
<p>報 告</p>
<p>1. 国立大学法人和歌山大学理事に関する規程の一部改正について 学長から、資料6に基づき説明があった。</p>
<p>2. 教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）の認証評価結果について 添田副学長から、資料7に基づき説明があった。</p>
<p>3. 令和元年度役付職員等について 学長から、資料8に基づき説明があった。</p> <p>（主な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証評価をはじめ法人評価など国立大学の評価にかかる作業量が膨大すぎる。

文部科学省の評価制度が問題なのか、資料の様式や作成要領が問題なのかは分からないが、働き方改革などが叫ばれている中で、大学がもっと効率的に作業できるように、文部科学省をはじめ国が真剣に考えていくべきである。

以 上